

【趣旨】

中丹地域の豊かな自然や京都『ゆらりー』サイクリングロードを活かし、カヌーや自転車、登山等による移動手段そのものを楽しむ新しい観光スタイル「スポーツ・トレイル」を推進・定着させるため、自然の循環を体感する環境スポーツイベント「SEA TO SUMMIT」を開催するとともに、「カヌー」「自転車」「登山」の拠点化を目指す。

1 「由良川 大江山 SEA TO SUMMIT」の開催【継続】

「SEA TO SUMMIT」を(株)モンベルと連携して開催し、全国のアウトドアスポーツ愛好家に向けて海・森の京都を発信

「由良川 大江山マルシェ」を同時開催し、参加者や家族等に魅力ある中丹の食や観光資源等をPR

【コース】神崎海水浴場（カヌー）～由良川沿川（自転車）～大江山頂上（登山）

【開催日程<予定>】10月1日（土）、2日（日）（2日間）

- ・ 第1日目 環境シンポジウム（綾部）
- ・ 第2日目 競技（カヌー → 自転車 → 登山）

由良川 大江山マルシェ
（2日間開催）

2 「JAPAN ECO TRACK」による情報発信【拡充】

中丹のスポーツ・フィールドとしての魅力を、全国のアウトドアに興味がある層に対し直接、情報発信するため、「JAPAN ECO TRACK」を活用し、(株)モンベル国内店舗(全国約100店)でのマップ掲出やモンベルフレンドフェアへの出展等によりPR

「JAPAN ECO TRACK」 (株)モンベルが提唱する、各地のアウトドアスポーツを楽しむコース（TRACK）の情報や地域の魅力を統一形式で発信し、国内外からの旅行者を中心に多くの人々の来訪を促す取組。

3 「カヌー」、「登山」拠点化の推進【拡充】

「カヌー教室」や「山歩き講習会」を開催し、スポーツ・フィールドとしての拠点化を推進

2015開催結果

中丹マルシェ含め、参加者3,020名

(10/3)

開会式、環境シホ
…180名参加

(10/4)

競技
…107名参加
京都府内18
近畿51、中国17
関東13、中部6
東北（山形）1
九州（鹿児島）1



【趣旨】

京都丹波ジビエの安心・安全ブランドを強化・確立するとともに、大消費地（首都圏及び京阪神）及び中丹地域で一斉にジビエフェアを開催し、普及定着を図る。

1 京都丹波ジビエイメージアップ戦略【拡充】

(1) 地域イメージ定着に向けPR(ジビエ大使、ロゴマーク)【新規】

(2) ジビエ料理を提供する飲食店のメニュー開発を支援。料理講習会の開催

(3) 地域イベント等で一流シェフによるジビエ料理の提供や販売

(4) 飲食店が期間限定で一斉にジビエ料理を提供する「京都丹波ジビエフェア2017」の開催

(5) 「京都丹波ジビエ推進ネットワーク」の設立【新規】

【役割】 京都丹波ジビエの普及・定着に向けた企画・運営

【メンバー】 京都丹波ジビエに関わる狩猟者、食肉処理業者、飲食店

※27.9 振興局（農林商工部・健康福祉部）、食肉処理業者、狩猟者、飲食店で**設立準備会を開催**
28.3 設立予定

2 京都丹波ジビエの安心・安全ブランドの確立【拡充】

(1) 安心・安全・美味しいジビエの流通を目指し、**商品認証や取扱店舗の登録制度の創設**【新規】

(2) 狩猟者、食肉処理業者、飲食店等へ「野生鳥獣肉の衛生に関する指針（ガイドライン）」を周知徹底

(3) 食肉処理業者や食肉処理業の許可を目指す狩猟者などの技能講習会を開催

3 首都圏等における京都丹波ジビエの普及・販売の促進【拡充】

(1) 一流シェフを起用し、マスコミ関係者や料理人を集めた試食会を開催

(2) **ジビエ専門スタッフによる飲食店へのリクルーティング**【新規】

(3) 飲食店における京都丹波産ジビエを使用したジビエ料理一斉販売キャンペーンの展開

1stステージ

- 地域へのジビエを普及
- 川上対策（良質ジビエの増産、猟師育成等）
- 川下対策（管内での取扱店舗の増、首都圏等の大口需要先の開拓）
- 有名シェフを通じたブランディング

2ndステージ

1stステージに加え

- イメージの定着促進**（大使、ロゴ、ネットワーク構築）
- 安心・安全・美味しいブランド化の推進**（商品認証や取扱店舗の登録制度）
- 首都圏等の店舗への積極的な働きかけ**



京都鹿肉デミグラス煮込み



京都丹波もみじの
オレンジマリネの焼肉

重点 1-3 森の京都ディスティネーションプロジェクト事業費 18,000千円【新規】

【趣旨】

森の京都博の開催を契機に、中丹管内にある古道など眠れる資産を整備し観光誘客等に活かすと共に、森の京都博を盛り上げるコラボ事業等を開催し、森の京都のPRを実施

1 大江山(復活！元伊勢古道と石畳古道) 8,500千円

大江山の古道(石畳)を復活し、丹鉄の駅間を結ぶ周遊トレッキングルートを設定するほか、森の京都や大江山のPRや、パワースポット探しなどによる魅力づくりを実施

(1) 幻の古道復活プロジェクト 【ハード整備】

- ① 未整備部分の整備・毛原峠(倒木撤去、安全対策等)
- ② 石畳の復旧整備等・今普甲道

(2) 統一デザイン提灯(案)によるイメージアップ

- (3) 京阪神等の大学生等わかもん(100名)を誘致
大江山のPRと集客等課題解決

2 奥上林(ほら！トレッキングルート) 7,000千円【ハード整備】

京都丹波高原国定公園(仮称)指定に伴う、古屋、洞峠周辺の「柝の木」の群生を活かした、自然豊かなトレッキングルートの整備等

- 「日本の原風景」綾部東部、上林地域の交流基盤づくり
遊歩道整備 公園道路等

<古道などトレッキングルートをつないで売り出す取り組み>

海・森の京都エリア内の
古道や国定公園の園路等
トレッキング道や遊歩道

まとめて
売り出す

<インバウンド対策>

海・森の京都 古道ナーブ

古道と温泉・地場産品販売店など魅力的な施設と一体的に発信。韓国等からのトレッキングツアーを誘客

【古道ナーブ】 ナーブとは神経や葉脈。エリアに広がる色々な古道・コースをノード(結節点)としてつなぎ合わせ、全体で売り出す。

【コンセプト】 歴史などを楽しみながら古道を巡り、温泉や食事、買い物などが楽しめるコース。歩くことが楽しめる幅の狭い小道。厳しくなく子供や老人、女性も歩ける道。

3 森の京都「中丹・木のある暮らし体感ツアー」の開催 2,500千円

森の京都の魅力の源である、森や木の魅力を人や現場で触れて伝える体感型誘客ツアーを開催。薪ストーブなどフォレストな暮らしに憧れる人などの移住・定住を目指す。

○ツアー概要：8月開催、定員30名

森堪能コース 1泊2日：参加料一人3,000円
「森+農+X」堪能コース 2泊3日：参加料一人5,000円 } 農家民宿泊

○特徴：森と生き・田舎暮らしを実践する「ツアー案内人」が、自身の仕事や暮らしなど、その生き様をおし、新たな魅力を発信

重点2 京都府北部連携・移住促進事業費

11,450千円

重点2-1 中丹STUDENT ACT 2016開催事業費

1,400千円【新規】

【趣旨】

中丹地域の小中高校生と大学生等が、多世代間などの新たなコラボ等のパフォーマンスを創り上げる過程やステージでの達成感などを通じ、「人と人」「人と地域」などの絆を深めることにより、自分・仲間・地域に誇りと愛着を醸成し、将来の移住定住につなげる。

- 1 コラボ・パフォーマンスづくり
多世代間など、新たなコラボユニットの形成を目指した、グループのマッチングや合同練習会の開催
(ステージイベントにコラボで参加)
- 2 ステージイベント
・地域の小中高校生や大学生等によるコラボ等のパフォーマンスステージ
・開催予定場所：福知山市内



※森の京都博「キッズダンスフェス」と同時開催！！

重点2-2 中丹ちょいなか暮らしづくり事業費

5,050千円【一部新規】

【趣旨】

京都縦貫道の全線開通で都会からより近くなった中丹地域を、自然とまち中が近接する気軽に行ける田舎「ちょいなか」と捉え、北部と京阪神を人と人の絆で繋ぎ、農家民宿などの地域魅力や人の魅力をPR。都会からの移住定住や中丹ファンの増加を図る。

地域魅力

地域人材で発信

MEET

学生

海と森の交京学団

北部地域への
誘致→移住定住

1 人と人のきずなを活かした地域への誘致 4,000千円【新規】

- (1) 食や人の地域交流ワークショップ「海と森のキュージュー」
京阪神の大学生等と地域料理や人によるワークショップを開催
(京都市内)

きっかけ
づくり

キュージュー(仏語)
地域の素材にこだわり、
組み合わせやアレンジを工夫する料理・店舗

(2) 地域人材の新たな掘り起こしと人の魅力による地域発信

住民主体でつくる『地域人材紹介コミュニティガイドブック(例:「中丹人」)』の作成支援(製作資金はクラウドファンディングを利用予定)

人との絆

(3) 京都市内等の大学生等のわかもんを組織化(「海と森の交京学団」)

SNSを中心とした学生間ネットワークづくり

北部ファン
づくり

2 地域の魅力づくりと移住・定住の推進 1,050千円

- (1) 移住定住セミナー開催：3回/年・地域人材を派遣
- (2) 中丹田舎暮らし体感ツアー開催：6回/年
- (3) 農家民宿説明会の開催
- (4) 教育体験旅行受入れ推進(地域体制の構築)【新規】

重点2-3 中丹式インターンシップ事業費

4,000千円【拡充】

【趣旨】

管内3市、北京都ジョブパーク及び大学連携機構等と連携し、参加者が中丹地域で生活しながら、仕事や地域暮らしを体験することができる、**中丹ならではの総合的なインターンシッププログラムをパッケージ型で提供**することにより、大学生等の地元企業への就職を目指す。

【対象】現役の大学生等（大学連携機構等を通じて京阪神の大学等から募集）

【大学との連携強化】 ←魅力アップ

- ・大学の単位認定型プログラム（2週間程度）を新たに設定【新規】
- ・地域公共政策士の資格認定プログラムの提供【新規】

【企業との連携強化】地域の立地大企業や地元企業と連携し魅力的なプログラムを提供【拡充】

【地域との繋がりを強化するための新規施策】 ←移住定住に結びつける。

- （1）イントロダクション交流会の実施【新規】
地域の人と学生をつなげるための交流会・セミナーの開催
- （2）地域・企業・学生交流会（1泊2日程度）の実施【新規】
参加学生のフォローアップと参加企業・地域の人とのつながりを拡大



重点2-4 中丹未来っ子ふるさと再発見事業費

1,000千円

【趣旨】

管内地域で、**若者や小中学生と地域住民等が協働で地域活性化の取り組み**を行うことにより、地域を盛り上げると共に、地域を知り、地域と交流する中で、**若者や子どもたちの地域を愛する心を醸成**する。（将来、都会等からの移住やUターンに結びつける。）

事業概要：高校生・大学生がコーディネーターとなり、公募で集めた地域活動に興味のある管内3市の小中学生と地元が協力し、地域体験や地域イベントへの参加などを企画・立案し実施

実施地域：3か所程度を公募（各市1か所）

- 参加者
- 高校生・大学生：大学生をリーダーに地域に入り、取組全体を調整・運営（子どもたちをサポート。**大学生と高校生のワークショップで運営**）
 - 小中学生：地域体験や地域イベントへの参加等
 - 地元：取組への協力・協働

全体事業費 5,000千円（日本財団補助4,000千円、一般財源1,000千円）

※日本財団の「海でつながるプロジェクト2016サポートプログラム」を申請中 補助率80%

重点3 中丹少子化総合対策事業費

1,600千円

重点3-1 こころの通う子育て地域再生事業費

800千円【新規】

【趣旨】

就学前の子どもや親などを対象に高齢者の知恵や技を活用した交流会や知恵袋塾などを開催し、高齢者の活躍の場を増やし、地域全体で子育てを支える気運を高め、**地域コミュニティの再構築**を推進する。

1 知恵袋塾の開催

地域の高齢者が指導役となり、就学前の子どもや親などを対象に「物づくり体験」(手工芸、木工等)や「語り部」、郷土料理の普及などを行い、子どもの情緒豊かな成長を育むとともに高齢者の生きがいづくりを進め、地域コミュニティの再構築を推進

2 交流会の開催

中丹管内の幼稚園児、保育園児等と知恵や技を持った高齢者などが交流するイベントを関係団体等と連携して開催

重点3-2 中丹子育て応援 プラスワン・エンジェル隊派遣事業費 800千円【拡充】

【趣旨】

少子化が進行する中、夫婦が理想とする子どもの数を持たない理由のひとつに、育児経験・知識の不足や地域が共に子育てする力の不足による**育児ストレス**がある。

保護者の育児ストレス解消と**子育て力の向上**を図るとともに、**地域で支える人材を育成**することにより、もう一人以上の子どもを望む家庭を、市や関係機関と連携し支援する。

1 実施会場 保育園・幼稚園等

2 講師 プラスワン・エンジェル隊(医師、臨床心理士、保健師等により編成)

3 実施メニュー

(1) 保護者対象応援隊派遣

保護者の子育て力の向上!

対象：育児不安等を抱える未就学児の保護者

内容：①子育て応援講話

②子育て悩み相談

③保護者座談会

(専門家による育児ストレス解消のための講話、悩み相談等)

(2) 中丹エンジェル支え隊応援講座の開催 【新規】

① 保育士等対象の専門的研修会(子育て支援保育士研修会)

対象：管内保育園の保育士等

② 地域の支援者対象の学習会

支援者の育成!

対象：子育て広場(サロン)等スタッフ

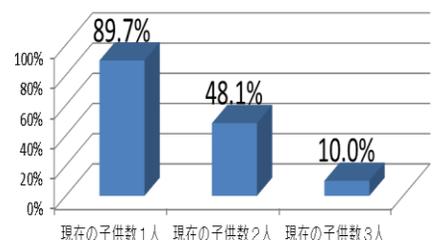
保護者の声：子どもとの関わり方を学ぶ機会がほしい。

地域の皆で育ててもらえる街であってほしい。

支援者の声：自分たちが学び、お母さん・お父さんにしっかりと伝えたい。

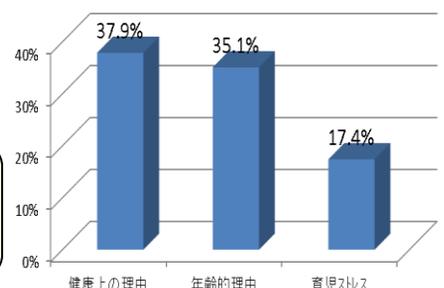
プラスワン以上望む割合

(保護者アンケート結果 有効回答数 161人)



理想の子供の数を持たない理由

(出典:第14回出生意向基本調査:国立社会保険・人口問題研究所 (経済的理由を除く))



【趣旨】

平成26年8月豪雨被害については、「由良川流域（福知山市域）における総合的な治水対策協議会」による国、府、市の3者による河川と下水道が一体となった総合対策を進められているところである。

ハード整備の対策と並行して、災害発生時における緊急避難の迅速化や関係機関の連携強化を図る対策に取り組むことにより、地域防災力の向上に向けた対策を強化する。

1 地域防災リーダー研修会

- ・災害時に地域住民先導役等の役割を担う**防災リーダーの災害対応能力の向上**を図る。
- ・地域防災リーダーが主体的に取り組めるようワークショップ形式を導入する。

2 弘法川災害対策現地研修会【新規】

- ・「弘法川内水被害対策研究会」の協議を踏まえ、**豪雨災害を経験していない地域の防災リーダー等に対し、弘法川の現地の状況を確認し、水害の発生状況や森林保水の重要性などを学んでいただく**とともに、公共事業での災害対策の役割への理解を深め、地域の防災意識を高める。



地域防災リーダー研修会の様子



弘法川内水被害対策研究会での協議